

(1)

やすらぎ

環境部の活動

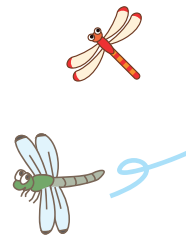
環境部部长 荒井 榮一

二中地区環境部は、各地区代表15名により構成されています。

30年度は、①花いっぱい運動、グリーンカーテン運動 ②土浦市環境展協力事業 ③ポイ捨て防止看板設置 ④文化祭参加協力 ⑤視察研修 ⑥環境マップの作成 ⑦ゴミ集積場の清潔化、マナーの向上に取組んでまいります。特に⑦の活動は、ゴミの分別、資源化、減量化を推進し、生活の環境保全を自主的に実践しようとする試みです。

人と自然が共生し、安全安心で暮らせる「まちづくり」は市民の共通課題であり、健康で文化的生活を将来にわたって確保することにあります。環境に及ぼす影響を十分に認識して、積極的に行動しなければならぬと思います。

真鍋地区、木田余地区は、土浦市の平均よりゴミの減量化、資源化共ワースト地域になっています。各地区のさわやか推進員の他、各関係各位の皆様と協働で、清潔で快適な環境保全の確保にむけて行動しましょう。



47号

平成30年9/1
二中地区市民委員会
文化広報部発行
電話 824-3588
FAX 824-3553



祝「第47回 花いっぱい運動コンクール」(土浦市) 最優秀賞受賞



ゴミ集積所の不適切な例。
上は内容物が入ったまま。下はゴミ袋を通路に放置。



環境マップの活動として「二中地区の自然と歴史の見どころ」を二中地区公民館1階に掲示しています。写真にQRコード(赤丸)を重ねて、その場所に簡単にアクセスできる工夫もしています。

二中地区

新地区長紹介



真鍋三丁目
小島 利夫
趣味：スポーツ観戦、ドライブ

真鍋地区で三丁目は、最も少子高齢化が進んでいる町です。その為に町内として何をすべきか？今までイベントがあっても外出する事が億劫なのか、出来ないのか高齢者の参加が少なかった。家に閉じ籠もらずに健康寿命を延ばしてほしいと思います。ご自分の身に係る事、有事の際の防災対処法を習得する事なら参加して頂けるかと考えております。

年度初めにご近所同士の「目配り、気配り、声掛け」をお願いしましたが、本年度より防災講習、訓練を定期開催し、お茶を楽しみながら町民同士触れ合い、面識を広め、協力して行動する事で元気で明るい町づくりが出来れば幸いです。



真鍋四丁目
上野 嘉久
趣味：ゴルフ

真鍋四丁目は830世帯1800名が住んでいる町内です。

当町内も高齢化が進み空き家も多くなり、新らしい家も建ち、若いご家族も増え「希望の持てる素晴らしい町」と思っています。

町内会としてこの若い方たちの力も借り、地区長として微力ではありますが、皆様との連携を深め、防災、福祉、環境美化の活動、更に交通安全、子供さんたちの健全育成活動などを行ってまいります。

又、これからも皆様の協力を頂きながら「住みよいまちづくり」を目指して頑張っていく所存です。

最後に、鹿島神社のお祭りに際しましてもご協力を頂き、無事終わりました事に感謝を申し上げます。

二中地区公民館

新職員紹介



公民館館長
矢口 昭

この度、4月の人事異動により、二中地区公民館の館長に就任致しました。

日頃より二中地区の皆様には、公民館運営並びに各種事業にご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、二中地区公民館は、同好会・各種団体の利用、及び、市民委員会や福祉活動の拠点、更には地域の皆様の交流の場として親しまれており、年間延べ4万人もの方々にご利用いただいております。

このような中、皆様が二中地区公民館でのさまざまな学習活動を通して、主体的に行動するために必要な知識や技術を習得し、よりよく生きるための道しるべを見つけていただければ幸いです。

今後とも地域の皆様と共に行動しながら、市民と行政が一体となった

協働のまちづくりに貢献してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

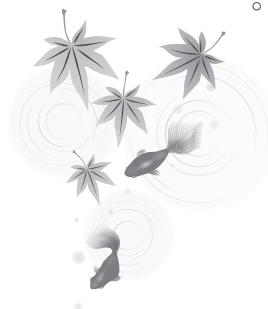


公民館指導員
根本 茂

4月から、二中地区公民館でお世話になっております。公民館で仕事をさせていただく中で、ご来館される皆様が、ご自分の趣味に生き活きと取り組んでいらっしゃる様子や、地域のために熱心に活動していらっしゃるお姿を拝見し、たくさん元氣と深い感銘をいただいております。

この度、チャレンジクラブを通して、子どもたちと触れ合えることは、とてもうれしいことです。

地域の皆様や公民館を利用される方々との交流を大切にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



市民委員会専門部事業 参加報告

合同視察研修

『アメリカ山徳育こども園』

視察に参加して

文化広報部 佐藤 敬

1月30日、参加者30名がバスに乗りながら一路横浜へ。当日は肌寒い風ながら冬晴れの好天気で心も弾みます。

港の見える丘公園でバスを下車、徒歩15分程で目的地の「アメリカ山公園」に到着するも目指す「こども園」は見当たらず。ウロウロしていると案内の女性が迎えに来てくださ

いました。

案内に従っていくと、何と公園の端にある一階建て風の建物から中へ入りエスカレーターで下の階へ移動。館内には種々の講座や展示等が出るスペースが随所に見受けられ、地域の人との触れ合いの深さを感じられます。

「徳育こども園」はその先にありました。説明によると、この施設は一般財団法人で児童を軸にした各種事業を展開している中の一つであり、横浜市の保育所としてオープンして6年になるそうです。保育に80名、

各種講座に300〜400名が利用しているとのことでした。

特徴的なのは、元町の一角に位置していることから、商店街との関わりを大切にし地域密着型の子育て支援事業を展開していることです。具体的には、地域で交流の出来るイベントを企画しながら街全体で子育てをし易い環境を作っているのです。

園内では未就学児童が保育士の方と賑やかに遊んだり学んだり楽しんでそうに動き回っていました。壁などには園児が描いた絵や紙細工等が展示されており、いわゆる「保育園」の雰囲気ガムンムンと感じられました。聞けば、体験型学習として田植えや

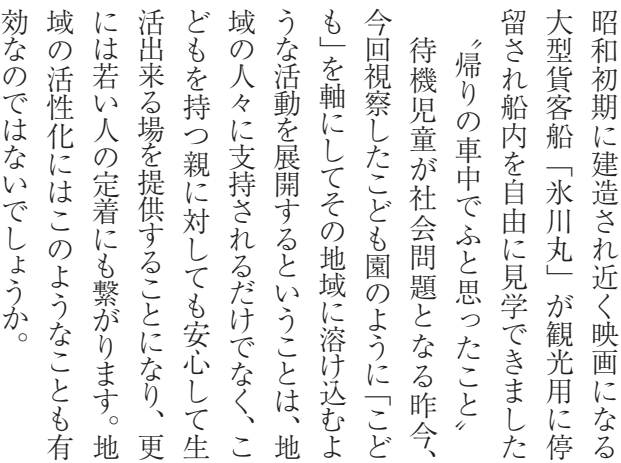
稲刈りも行っているとのこと。都会のこども達にとっては自然に触れる貴重な体験で、これからの人格形成には大切なことだと思えます。

園内の見学を終え外に出ると目の前は横浜元町商店街。高級車や外車が店の前に停車している脇をウインドウショッピングしながら散策していると横浜中華街がすぐ隣にありました。さあ、これから昼食だ、期待に胸が膨らみます。こども園を案内して下さった方に紹介されて入った老舗の中華飯店ではコース料理を満喫。皆さん、満足そうな表情で談笑していました。

食事の後は山下公園まで腹ごなし。昭和初期に建造され近く映画になる大型貨客船「氷川丸」が観光用に停留され船内を自由に見学できました。

「帰りの車中でふと思ったこと」

待機児童が社会問題となる昨今、今回視察したこども園のように「こども」を軸にしてその地域に溶け込むような活動を展開するということは、地域の人々に支持されるだけでなく、こどもを持つ親に対しても安心して生活出来る場を提供することになり、更には若い人の定着にも繋がります。地域の活性化にはこのようなことも有効なのではないでしょうか。



前期公民館講座



爽快！ボクシングエクササイズ



仏教の話と念珠づくり



棒編みの基本（初心者向け）



元気になるヘルシー料理



バラの1年間



小筆入門～初めての小筆で書道～

公民館講座のご案内

公民館講座は、前期・後期に分かれ、さまざまな分野で開かれています。募集要項は、市の広報紙「つちうら」の4月・9月号に掲載されます。市内の各中学校区の公民館毎に募集案内が出ます。二中地区以外の講座にも応募出来ますので、興味のあるところに問い合わせさせて下さい。



山ガール～パワースポットに行く～

チャレンジクラブの活動紹介

指導員 根本 茂

チャレンジクラブは、異年齢の小学生が、年間を通じて同じグループでさまざまな体験活動を行い、協調性や思いやりの心を育むことを目的として、年間10回の活動を予定しています。

今年度は、真鍋小学校の四年生9名、五年生13名、六年生6名、合計28名でスタートしました。

チャレンジクラブは、二中地区市民委員会、青少年育成部の皆様よりご協力をいただきながら、三つの約束「①いつも元気にあいさつします。②どんなときにも友だちを大切にします。③どんな



ことにも思いきつてチャレンジします。」が実行できるようがんばっています。今年度の計画は、次の通りです。

5月 開講式。科学に挑戦！

6月 星座と地球の歴史を学ぼう
7月 世界湖沼会議に向けて霞ヶ浦の風景をリサイクルガラスアートであらわそう

8月 鹿島製鉄所・鹿島スタジアムの見学

9月 絵手紙を作って、お年寄りにプレゼントしよう

10月 マジックに挑戦
おもしろ理科先生と防災について学ぼう

11月 文化祭で模擬店のお手伝いをしよう

12月 正月しめ飾りを作ろう
料理にチャレンジしよう。

閉講式

5月13日(日)の開講式には、チャレンジクラブ生27名が参加し、市民委員会羽生委員長、真鍋小学校江原校長先生、土浦第二中学校近藤教頭先生、子ども福祉課藤井課長から励ましと期待のご挨拶をいただきました。

ひき続き、つくばエキスポセンターアウトリーチ講師をさせていただきます。お願ひし、「科学に挑戦！」の出席講座をしていただきました。

6月2日(土)には、つくば市にあります「つくばエキスポセンター」と

「地質標本館」を見学しました。「つくばエキスポセンター」では、展示室のいろいろな装置を操作したり、プラネタリウムを見学したりしました。プラネタリウムでは、その日のつくば市の星空がスクリーンに映し出され、春と夏の星座探しをしました。「地質標本館」では、ワークシートの課題に答えながら、大きな岩石や美しい鉱物を見学しました。



「科学に挑戦！」に参加しました

真鍋小学校 六年 酒井 源太郎

しゃぼん玉のまくが中心に集まるところを見て、こういうふうになるんだなとおどろきました。また、しゃぼん玉が、なぜにじ色になるのか不思議に思っていて、今回初めて、そのわけがわかりました。

浮沈子では、マジックで楽しく原理や法則を勉強することができました。水かさを調節するところが少しむずかしくて、おもしろかったと思います。

今回のチャレンジクラブの「科学に挑戦！」では、ぼくの知らなかったことや不思議に思っていたことなど、交流を深め楽しくたくさん学べたことがあったので、とてもよかったですと思います。これからの生活に、今回学んだことをいかしていきたいと思っています。

つくばエキスポセンター・地質標本館を見学しました

真鍋小学校 五年 菅澤 真桜

つくばエキスポセンターでは、楽しくクイズに答えながら、わかりやすく、いろいろなことを勉強することができよかったです。そのほかにも、プラネタリウムでいろいろな星座を学ぶことができたので、今日の夜に、どんな星や星座があるか、よく観察したいと思いました。

地質標本館では、いろいろな標本や石を見ることができて、よかったです。標本では、いろいろな虫の標本があつて、とてもおもしろかったです。石を見たときに、きらきら輝く石から白い色の石まで、さまざまな石があつたので、また行って、くわしく見たいと思いました。恐竜の足型を見たとき、自分の足と比べてみたら、数十倍も大きかったです、びっくりしました。とても楽しかったです。

中区 三地区

青年会紹介

3

●「やすらぎ45号」より3回にわたり、紹介してきましたが今回で終了となります。(原稿はH30・6月現在)

木田余青年会

会長 中島 毅

私たち木田余青年会は、年間を通じて様々な活動に取り組んでおります。木田余地域の清掃活動、祭礼への参加と祭礼活性化の推進、市民体育祭や二中地区文化祭への参加、神社の清掃や年越しの準備など。様々な活動を行いながら、地域の活性化に少しでも役に立てるように活動を続けてきております。

今年
で木田
余青年
会は40
年を迎
えます。
私自身、
木田余
青年会
の活動
を通じ
て、様
々な人



に出会うことができ繋がりを持つことができました。昨今、近隣住民の方々との繋がりが薄れてきてしまったなか、木田余青年会を通じて地域の方々と触れ合うことができることは、喜ばしいことだと感じております。今後も木田余地域の活性化の推進と地域の繋がりを強めていきたいと思えます。そして私たちの思いを後世に伝えられるよう、また残していけるように、今後も活動を続けていきたいと思えます。

木田余東台青年会

会長 加藤 俊彦

木田余東台青年会は、結成7年目と歴史は浅く、メンバーは13人と規模も小さい組織です。ですが、メンバーのほとんどが青年会に入ってから知り合いのため、上下関係はなく、とても風通しの良い組織であり、近所に住む大人の友達感覚で交流、活動しています。

青年会の活動内容は、木田余祭礼や市民体育祭などありますが、特筆



すべき活動は、毎年8月に行われ、今年で6回目を迎えた「東台サマーフェスティバル」です。東台の各団体の協力を得ながら、露店やゲーム、様々なショーを催し、地域住民の方々の交流の場として、大変意義あるイベントになっており、今後も発展させていきたいと考えております。

東台がより住みやすい町になるよう充実した活動をしていきますので、今後ともよろしく願っています。

若松町つばさ会

会長 三木 崇行

若松町青年会は、「つばさ会」と称して活動しています。つばさ会は、町内のコミュニティの活性化の為に、町会・育成会と連携を取りな

がら地域に根ざした活動に取り組んでいます。

主な活動としては、年に数回の廃品回収や町内清掃、育成会・町会の行事の手伝いを行っています。春には若松公園の満開の桜の木の下での花見。夏には汗を流しながら盛り上げる祭り。昨年は竹を切って本格的に流しそうめんに初挑戦。大人も子どもも一緒になってはしゃいでいました。秋には、忙しい中集まり優勝めざして一致団結して挑む市民体育祭。冬には育成会行事の手伝いでのもちつき。みんなで力を合わせてついたお餅はとても美味しいです。

このような様々の行事を一日楽しく過ごす事で子どもから大人までの連携の強化、コミュニティの活性化に取り組み、各世代の交流を図っています。



スポーツ健康部事業

バスハイキング (平成29年11月8日)

鷲子山上神社に参加して

南川 幸之進 (木田余東台)

「鷲子山上(とりのこさんじょう)神社」は470mの山頂に、鳥居を

中心に右側が茨城県、左側が栃木県との県境に鎮座する神社です。奈良時代の「常陸の国風土記」には下野の国境の大山と書かれており、千年以上国境であったようです。

ご祭神は天日鷲の命(あめのひわしのみこと)といわれる鳥の神様です。古い時代よりフクロウが大神様の使いで、幸福を呼ぶ神鳥として崇敬されており。古来神仏混淆の神社のため、近年は通称「フクロウ仏」と言われています。フクロウだるまとも呼ばれ、子どもたちにも親しまれております。

境内には日本最大級の大フクロウを始め多くのフクロウ像があり、「運氣上昇・金運の福徳パワースポット」として全国より多くの方々(らいさん)が礼賛されております。大フクロウの下の中心に不苦勞(フクロウ)御柱があります。この御柱は、苦勞や悩みをたたき出しフクロウに運び去ってもら



い、「金運成就・開運幸福・家庭円満・身体健全」を大フクロウに運んできてもらうという御柱です。また、高麗宝クジが当たった、温泉が出た、商売が繁盛した等、金運にまつわる幸運の話題が絶えない不思議な御柱です。

当日は天候に恵まれたためか参詣者も多く、御柱のご利益にあやかりたいと、笑顔で不苦勞御柱をたたいていました。

私たちは、この神秘的な運氣が漂う山頂周辺のうっそうとした密林の遊歩道を、小鳥たちのさえずりを聴きながらハイキングしました。

まちづくりの
実践をたたえる表彰

「土浦市まちづくり市民会議」で

は明るく住みよい豊かなまちづくりを推進するため、市民憲章を制定しており、多大な功績をあげている個人や団体を表彰しています。

今年度は、二中地区では次の方々が表彰されました。

地域住民との連携意識向上のため献身的に行動し、感謝されている方々です。

●青木葉 孜(あは) 真鍋四丁目 防犯活動(16年)

防犯体制を強化し、町内の防犯・交通安全向上に貢献しました。

●芳賀沼 幸治 木田余東台 体育の振興(13年)

スポーツを通じて若者をまとめ、行事に参加協力をしています。

●小室 勝男 木田余東台 環境美化・防犯活動(10年)

美化活動を通じて町内をまとめ、行事に参加協力をしています。

●阿部 里志 木田余東台 体育の振興・防犯活動(10年)

スポーツを通じて若者をまとめ、行事に参加協力しています。



新書図書紹介

琥珀の夢 上・下 伊集院 静
おらおらでひとりいぐも 若竹 千佐子

転生の魔 笠井 潔

千の扉 芝崎 友香

黙殺 畠山 理仁

ふたご 藤崎 彩織

土の記 上・下 高村 薫

百年泥 石井 遊佳

銀河鉄道の父 門井 慶喜

星の子 今村 夏子

漫画 君たちはどう生きるか 羽賀 翔一

キラキラ共和国 小川 糸

この世の春 上・下 宮部 みゆき

サハラの薔薇 下村 敦史

蒼き山嶺 馳 星周

おわびと訂正

前号(46号)の「農産物提供者御芳名」に誤りがありましたので、おわびして訂正させていただきます。今後は十分注意致します。

◆木田余中 誤 小野辰夫
正しくは、「野口辰夫」様でした。

第23回
真鍋の桜を楽しむ集い

恒例の「真鍋の桜を楽しむ集い」が4月7日、真鍋小学校で開催されました。今年は桜が早めの開花だったため、前の週が見頃であったものの、当日は各種イベントで盛り上がりを見せていました。(文化広報部)



4月1日撮影



編集部コラム

縦書き・横書き

世の中で出版されている本、雑誌、新聞などは文章が縦書きであればページは右開き、横書きであれば左開きである。

これは、文章を読み進めていく方向と逆方向にページをめくることで自然なつながりとなるためであらう。あまりに当たり前で、本や雑誌を読んでいるこの事を意識することもないのではないかな。ちなみに本誌は縦書きの冊子なので、右開きである。ここまで読み進めてきて特段の違和感はないかな。

ところが最近、どうにも気になる冊子がいくつか目につくようになってきた。右開き冊子は、縦書きが基本のはずであるが、かなりのページが横書きで占められているものもある。なぜ、これほどまで？と思うくらいだ。数年前までは違和感はないかなのだが、最近では気になっしょうがなくなってしまった。

読者への分かりやすい情報発信のための工夫だとは思いますが、冊子の構成的には混乱を招いていないか。ここまでやるのなら、思い切って、左開きにしてはどうかな、とも思ってしまう。皆さんは、どう思いますか？



▲「やすらぎ」のバックナンバーは二中地区公民館ホームページから見るができます。